

## 愛知県における各がん診療連携拠点病院の役割

### 1 名古屋医療圏

#### (1) 愛知県がんセンター中央病院（名古屋市）

愛知県がんセンター中央病院は、昭和39年に東海地方のがん診療・研究の拠点として設立されました。日本で3番目の研究所を併設する本格的ながんセンターとして、がんの本態解明から制圧に向けてのがん診療・研究が行われています。研究所と一体になってがん制圧を目標とした研究を行い、その研究成果に基づいた最高のがん診療を提供し、そして病院が行っている最新のがん診療技術と知識を一般病院のがん治療医に広く普及させて、愛知県さらには国内外のがん診療水準を向上させることを目標としています。

愛知県における都道府県がん診療連携拠点病院として、愛知県がん診療連携協議会と5つの部会、そして相談支援センター連絡会議を開催し、地域がん診療拠点病院を束ね、拠点病院全体で効率よく課題に取り組んでいます。

#### (2) 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター（名古屋市）

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センターは、名古屋市北部と尾張中部医療圏（名古屋市北部に隣接）を担当し、本県のがん医療における化学療法・小児がんの拠点としての役割を担っています。独立行政法人国立病院機構名古屋医療センターの歴史は古く、明治11年に創設され、昭和20年には国立名古屋病院となりましたが、約120年の歴史を有する病院です。

平成15年1月に設置した、外来化学療法室の室長は厚生労働省「外来通院がん治療の安全性の確立とその評価に関する研究」の班長として外来化学療法の整備、普及に努めており、「がん薬物療法専門医」も3名おります。また、日本臨床腫瘍学会の教育指定病院にもなっており、各科の枠組みを越えた多臓器にわたるがん薬物療法を可能としています。

小児科では、最も高頻度の小児がんである白血病・リンパ腫の治療を行うとともに、治療後の生活を支援するため、退院時の学校関係者との連携を密にしております。愛知県がん対策推進計画でも小児がん患者とその家族へ支援体制の整備を目標としておりますが、名古屋医療センターにはそのモデルケースとしての役割が期待されております。

また、緩和ケアチームが組織され、平成18年5月より緩和ケアチーム加算を取得しています。小児科には全国的に数少ないチャイルドライフスペシャリストが在籍しており、緩和ケアチームにも参加して対応しています。

#### (3) 国立大学法人名古屋大学医学部附属病院（名古屋市）

国立大学法人名古屋大学医学部附属病院は、明治4年の公立の仮病院設置に始まる歴史を有し、現在まで愛知県を中心とする広い地域に高度の医療を提供し、また、名古屋大学医学部の附属病院として多くの人材を育成してきました。急性期患者を中心に最高水準の医療を提供、開発し、また医療者に対する研修を行っております。本県のがん医療におけるがん専門の人材育成の拠点としての役割を担っています。

国立大学法人名古屋大学医学部附属病院では、病院を挙げてがん診療に力

を入れており、化学療法部や地域医療センターを設置して、がん診療連携拠点病院としての機能を充実させるとともに地域医療との関わりを密にするよう努めております。

平成17年に設置された化学療法部は、腫瘍センターとしての機能を持ち、臓器横断的ながんを対象とした化学療法を実施しております。

また平成19年10月より実施された文部科学省の公募事業「がんプロフェッショナル養成プラン」に他大学との共同プログラム「臓器横断的ながん診療を担う人材養成プラン：グローバルスタンダードにかなうメディカルオンコロジーチームの育成」が、「東海がんプロ」として全国で合わせて18のプログラムの一つとして選定されました。このプログラムは、質の高い専門医及びコメディカルを養成することを通じて専門的なチーム医療を育成し、東海地域の広い範囲にわたって、がん医療の水準向上を図るもので、化学療法部長は「東海がんプロ」の中心的指導者として活動しております。

#### (4) 社会保険中京病院（名古屋市）

社会保険中京病院は、名古屋市南部と名古屋市南部に隣接する知多半島医療圏を担当し、本県のがん医療における相談支援の拠点としての役割を担っています。

がん相談支援センターでは、看護・助産師歴25年の看護師長が専任相談員として地域医療連携・相談室の他セクションの担当者と協力して業務に当たり、更にはがん医療相談は専門的かつ多岐にわたるため、がん診療委員会のメンバーがサポートする体制を構築しております。

また、緩和ケアチームは、平成15年5月より緩和ケア診療加算を算定できる緩和ケアチームとして多数のエピソードに対応してきました。緩和ケア部長は、全国各地から依頼を受け、講演や研修・指導を行っておりますが、特に最近では、がん診療に携わる医師を対象とした緩和ケア研修会において、本県のみならず他県の病院からも依頼を受け企画責任者、協力者として、緩和ケアの普及に努めております。

#### (5) 名古屋市立大学病院（名古屋市）

名古屋市立大学病院は、昭和6年に名古屋市民病院として設置されて以来70余年の歴史を有しております。現在では808床の病床と高度先進医療機能を持つ名古屋市の中核医療機関として、医療サービスを提供するとともに、地域の健康と福祉の向上に貢献する多数の医師、研究者を輩出しており、本県のがん医療における精神腫瘍学及び名古屋市(政令市)のがん対策の拠点としての役割を担っています。

名古屋市立大学病院は人材育成や人事交流を活発化して名古屋市域の医療の向上、がん対策の向上に努めており、政令市名古屋市と愛知県が連携して県全体のがん医療の均てん化を促進するために、重要な役割りを果たしております。

また、特に緩和ケア、中でもがん患者のこころのケアに積極的に取り組んでおり、国立がんセンターで精神腫瘍医として新分野を開拓してきた精神科医が中心になり、サイコオンコロジーチームを設けております。外来診療に

において、がん患者のこころのケアのためにサイコオンコロジー専門医が診療にあたる体制を整えるとともに、1-2年の専門医コースを用意するなどして、サイコオンコロジストの養成にも力を注いでおります。

名古屋市立大学病院は、今後のがん治療に不可欠なサイコオンコロジーについて全国のモデルとなり得る先進性を有しております。

#### (6) 名古屋第一赤十字病院（名古屋市）

名古屋第一赤十字病院は、名古屋市西部から愛知県北西部を中心とした地域を担当し、本県のがん医療における血液腫瘍、特に骨髄移植と緩和ケア（病棟）の拠点としての役割を担っています。

昭和52年に初めて骨髄移植を行って以来、国内トップクラスの移植を実施し、日本の骨髄移植の発展に寄与してまいりました。平成3年開設の骨髄移植センターは平成18年に造血細胞移植センターとして拡充され、内科約600例、小児科約500例、累計移植件数は併せて1,100例を数え、最近では年間約80件の移植を行っており、血液内科、小児血液腫瘍科の入院患者数は常時100名を超え、白血病が約半数、リンパ腫、多発性骨髄腫を併せると血液系悪性腫瘍が80%を占めています。

昭和59年に開設した小児医療センターでは、本県の子ども病院の役割を果たしております。小児血液腫瘍科では、悪性腫瘍に対しては化学療法を、悪性度の高い症例や化学療法無効症例に対しては造血幹細胞移植を施行し、また固型腫瘍に対しては小児外科との連携により適切な治療を行っております。平成11年には、遠方より来院され長期入院される患者家族用の慢性疾患児家族宿泊施設「めばえ」を設置しました。

更に緩和ケアセンターは、県内病院では最多の25床の緩和ケア病棟を備え、患者及びご家族のQOLの向上に努めております。

#### (7) 名古屋第二赤十字病院（名古屋市）

名古屋第二赤十字病院は、名古屋市東部を担当し、本県のがん医療における放射線療法と都市型地域医療連携の拠点としての役割を担っています。

放射線療法においては、平成18年4月に国内で3台目、県内では初の高精度放射線治療装置「トモセラピー」を導入するとともに、「密封小線源治療装置」「リニアック」を備えた高精度放射線治療センターを開設しております。

昭和59年に救命救急センター、平成8年に災害拠点病院、平成17年には愛知県下初の地域医療支援病院の指定を受けるなど様々な指定を受けており、また地域医療連携センターや開放病床の設置、二次救急輪番病院への参加など様々な面で地域医療の充実に注力しています。

手術治療については、年間7000件と非常に多く、胃がん112例、大腸がん250例、乳がん52例、肺がん50例、子宮がん32例など多数のがん手術を行い、内視鏡外科手術などの低侵襲手術も積極的に導入しています。

複数の大規模病院と多くの診療所の連携を目指し、昭和59年に名古屋市医師会が立ち上げた「都市型連携システム」では中心的な役割を果たし、圧倒的多数の登録医と連携し、都市型医療連携の中核病院として地域での連携モデルを構築しております。

## 2 海部津島医療圏

### ○愛知県厚生農業協同組合連合会連海南病院（弥富市）

愛知県厚生農業協同組合連合会連海南病院は、愛知県の西端に位置し、名古屋市西部から三重県北勢地域の一部にまたがる診療圏をもつ基幹病院としての役割を担っています。

平成15年には、暖かなおもてなし、症状コントロールに現代医学の成果を生かすこと、そしてチームを組んでケアしていくことの三つが揃ったヘルスケアセンターとして、緩和ケア病棟を開設しました。医師、看護師、臨床心理士などがそれぞれの専門性を生かしつつチームを組んで対応しており、がん治療から疼痛コントロール、看取りまでの幅広い医療を行っております。

在宅医療への対応も充実しており、訪問看護ステーション2箇所とヘルパーステーション3箇所を擁し、在宅医療における地域の支援を行いつつ地域医師会と開業医の連携協力を得て、ターミナルケアのネットワーク作りを進めています。

## 3 尾張東部医療圏

### ○公立陶生病院（瀬戸市）

公立陶生病院は、尾張東部地域において幅広い診療機能を持つ地域中核病院としての役割を担い、急性期医療を中心に、地域全体の医療水準の向上と、地域住民への良質な医療サービスの提供を展開しております。

胃がん、大腸がん、乳がんを始めとする悪性疾患を中心に年間の手術件数は800件以上で、大腸癌などの消化管悪性腫瘍に対しても、適応を厳格にした上で積極的に腹腔鏡下手術を行っております。

最近増加している前立腺がんの治療に威力を発揮することが期待されている前立腺がん小線源治療装置の導入を予定しております。

## 4 尾張西部医療圏

### ○一宮市立市民病院（一宮市）

一宮市立市民病院は、尾張西部医療圏の基幹病院としての役割を担い、地域の医療水準の向上に努め各種医療機関との連携を強め、地域住民の健康の増進と福祉の向上に努めています。

平成17年より精神科医師1人を含む医師4人、看護師2人、薬剤師1人による緩和ケアチームが活動を開始し、さらに臨床心理士、医療ソーシャルワーカーもメンバーに入り、患者や家族の身体的苦痛、精神的苦痛などの問題に対応しております。

更に平成18年より医師、看護師を始め、薬剤師、理学療法士、診療放射線技師等多職種メンバーで構成される乳がんサポートチームも活動を開始し、治療についてだけでなく、マンモグラフィ等の各種画像診断、病理検査に関することやかつら・補正下着などのボディイメージに関することなどの入院中や外来通院及び在宅療養の患者や家族の様々な相談に対応しております。

## 5 尾張北部医療圏

### ○小牧市民病院（小牧市）

小牧市民病院は、尾張北部で唯一救急救命センターを持つ基幹病院としての役割を担い、がん医療についても積極的な姿勢で取り組み、手術取扱件数のみならず内視鏡手術などの特殊診療技術も他に先行しております。

悪性腫瘍手術については、年間約 700 件で、胃・大腸が約 300 件、乳房は約 120 件と県下でも有数の手術件数を誇っております。また前立腺がんについては、全国の 343 施設中 10 番目となる年間 92 件の全摘手術を行っています。

放射線療法については、昭和 60 年からリニアックによる治療を開始し、現在年間 7,000 件の実績があり、平成 19 年度には、放射線治療機器緊急整備事業補助金により新機種を導入しました。また脳腫瘍や脳血管障害などの治療機器として、ガンマナイフを平成 3 年に全国に先駆けて導入し、これまでに 5,000 症例以上の治療に当たっております。

## 6 西三河北部医療圏

### ○愛知厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院（豊田市）

愛知厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院は、公的医療機関、地域基幹病院としての機能の充実と強化を図り、40 万人都市の中核医療機関としての役割を担っています。

平成 17 年 4 月には呼吸器センターや外来化学療法室を開設し、平成 19 年 1 月には地域がん診療連携拠点病院の指定を受けがん相談支援室を開設しました。また、退院に関する疑問や不安に対し、患者や家族が病棟スタッフと共に考えていく退院コーディネーター室が開設されています。

高齢社会への対応としては、平成 4 年に在宅医療と訪問看護を行うための医療保健福祉部を開設し、平成 5 年 6 月かも在宅介護支援センター（現在の豊田厚生地域包括支援センター）を受託、平成 6 年 5 月に加茂訪問看護ステーション（現在の豊田厚生訪問看護ステーション）を開設、また、平成 11 年 9 月には加茂病院介護保険センター（豊田厚生介護保険センター）を開設し、在宅医療にも積極的に取り組んでおります。

## 7 西三河南部医療圏

### ○愛知厚生農業協同組合連合会安城更正病院（安城市）

愛知厚生農業協同組合連合会安城更生病院は、人口 17 万の安城市の市民病院的病院として、また人口 100 万人強の西三河南部医療圏最大の病院として、地域中核病院の役割を担っています。

平成 14 年 4 月に現在地に新築全面移転すると同時に終末期がんへの対応のため、西三河地域で初めての緩和ケア病棟を開設しました。

平成 17 年には日本医療機能評価付加機能（緩和ケア）を取得し、平成 18 年には通院がん治療患者の肉体的負担を少しでも緩和するため、ベッド数 21 床を備える外来化学療法室を設置しています。

その他、県下で最初のがん治療専門薬剤師研修施設の認定を受けるなど、関係医療職員の教育と育成にも力を注いでいます。

## 8 東三河南部医療圏

### ○豊橋市民病院（豊橋市）

豊橋市民病院は、大学病院に勝るとも劣らない病床数910の大規模病院で、東三河北部医療圏も含めた東三河全域の県民に高度ながん医療を提供するために必要不可欠の存在で、本県を代表する基幹病院の役割を担っています。

東三河地域で唯一の救命救急センターを備え、救急外来部門（ER）と重症例を担当する救命救急センター・ICU部門に分かれています。また、ヘリポートを併設し、東三河全域からドクターヘリまたは防災ヘリにて重症救急患者を受け入れております。

がん医療においても、平成18年度の入院患者登録は943件（胃がん：192件、大腸がん：151件、乳がん：80件、気管支及び肺がん：66件、直腸がん：54件、子宮がん：45件、肝がん及び肝内胆管がん：34件、前立腺がん：31件、その他：290件）と多くの症例に対応しています。また、泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術に関しては先進医療実施施設の認定を受けております。



# 兵庫県





がん診療連携拠点病院に係る推薦意見書（兵庫県）

1 はじめに

(1) 本県のがん対策の取り組み状況

- ・ がんの死亡者数の増加に対し、本県では、昭和 62 年に「ひょうご対がん戦略会議」を設置して、その提言をもとに「推進体制」「予防・教育啓発」「検診」「医療」「情報」及び「研究」の 6 つの柱からなる「ひょうご対がん戦略」を総合的に推進し、粒子線治療施設の早期設置に関する提言や、肝がん集団検診の開始などの成果がありました。
- ・ 平成 9 年度からは、「ひょうご対がん戦略」の成果と課題を踏まえ、がん対策の重点を「働き盛りのがん対策の推進とがん患者の QOL（生活の質）の向上」に置いた「新ひょうご対がん戦略」を推進し、全がん死亡率全国値との差の縮小（平成 9 年 12.4→平成 17 年 9.6）や、粒子線医療センターの供用開始、前立腺がん検診の開始などの成果がありました。
- ・ 平成 20 年 2 月に、「がん予防及びがん検診受診率向上による早期発見の推進」「質の高いがん医療体制の確保」「研究の推進」の 3 つの柱からなる「兵庫県がん対策推進計画（第 3 次ひょうご対がん戦略）」（以下「兵庫県がん対策推進計画」という。）を策定し、総合的ながん対策を推進しています。

(2) がんの年齢調整死亡率

- ・ 本県のがんの年齢調整死亡率を全国値と比較すると、平成 17 年において、男性では大腸がん、前立腺がんが、女性では、乳がん、血液がん、大腸がんが全国値を下回っている一方、男性では、肝がん、肺がん、胃がん及び血液がんが、女性では、肝がん、肺がん胃がん及び子宮がんが全国値を上回っています。
- ・ 特に、肝がん、肺がんの年齢調整死亡率が高いことが、本県の全がん年齢調整死亡率が全国値よりも高い要因となっています。
- ・ しかしながら、全国値を上回っているすべてのがんについて、男女を問わず、全国値との差は縮小しています。

表 がんによる年齢調整死亡率（人口 10 万対）  
（男性）

		平成 7 年			平成 17 年		
		全 国	兵庫県	差	全 国	兵庫県	差
H17 全 国値 以下	大腸がん	24.4	26.5	2.1	22.4	22.1	△0.3
	前立腺 が ん	7.7	7.2	△0.5	8.5	8.2	△0.3
H17 全国値 以上	肝がん	31.6	43.9	12.3	23.7	30.3	6.6
	肺がん	47.5	52.4	4.9	44.6	48.2	3.6
	胃がん	45.4	49.6	4.2	32.7	33.2	0.5
	血液がん	13.0	13.8	0.8	11.7	12.0	0.3
	全がん	226.1	248.5	22.4	197.7	210.6	12.9

(女性)

		平成7年			平成17年		
		全 国	兵庫県	差	全 国	兵庫県	差
H17 全国 値 以下	乳がん	9.9	9.6	△0.3	11.4	10.6	△0.8
	血液がん	7.2	6.4	△0.8	6.7	6.3	△0.4
	大腸がん	14.1	13.6	△0.5	13.2	13.0	△0.2
H17 全国 値 以上	肝がん	9.1	12.4	3.3	7.7	10.2	2.5
	肺がん	12.5	14.4	1.9	11.7	12.8	1.1
	胃がん	18.5	19.6	1.1	12.5	12.9	0.4
	子宮がん	5.4	6.5	1.1	5.1	5.4	0.3
	全がん	108.3	113.6	5.3	97.3	100.5	3.2

資料 厚生労働省統計情報部「人口動態統計」

## 2 今後の対応

上記の戦略・対策を総合的に推進してきましたが、がんの死亡率は依然、全国よりも高い状態が続いています。このため、本県では、都道府県がん診療連携拠点病院の整備を通じて地域型拠点病院等に対する

- ① 粒子線治療等の高度診療機能の充実強化
- ② 専門医研修等の実施
- ③ 全県相談支援センター機能の提供
- ④ 兵庫県がん診療連携協議会における地域連携クリティカルパスの検討及び整備 等

地域がん診療連携拠点病院の整備を通じて

- ① がん診療に携わるすべての医師に対する緩和ケア研修の実施
- ② 化学療法等に関する研修の実施
- ③ 相談支援機能の強化 等

により、がん医療水準の均てん化を通じてがん死亡率の低減を図るとともに、がん患者の療養生活の質の維持向上を図ってまいります。

## 3 がん診療連携拠点病院の整備について

「兵庫県がん対策推進計画」では、がん診療連携拠点病院の整備について、「治療の初期段階からの緩和ケアの普及に重点を置くなど、がん診療連携拠点病院の整備が必要な圏域については、県は国と密接な協議を行いながら、早期整備に努める」と記載しました。

国の「がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」や本県の「ひょうご対がん戦略会議」（有識者、関係団体、がん患者団体等で構成）の議論、空白圏域を解消すべきといった県議会やがん患者会からの意見等を踏まえ、次の方針に基づき、推薦病院を選定しました。

- ① すべての2次医療圏域において、がん診療連携拠点病院を整備すること。
- ② 「必須」指定要件を具備していること。
- ③ 2次医療圏域において複数の医療機関を推薦する場合は、本県におけるがん診療の質の向上やがん診療の連携協力体制の整備が一層図られることが明確であること。

今回、推薦する地域型拠点病院及び指定要件具備状況は次のとおりです。

圏域名	医療機関名	緩和ケア	相談支援体制	院内がん登録	年間新入院がん患者数 (平成19年)
神戸	国立病院機構神戸医療センター	○	○	○	1,371人

○ 神戸圏域

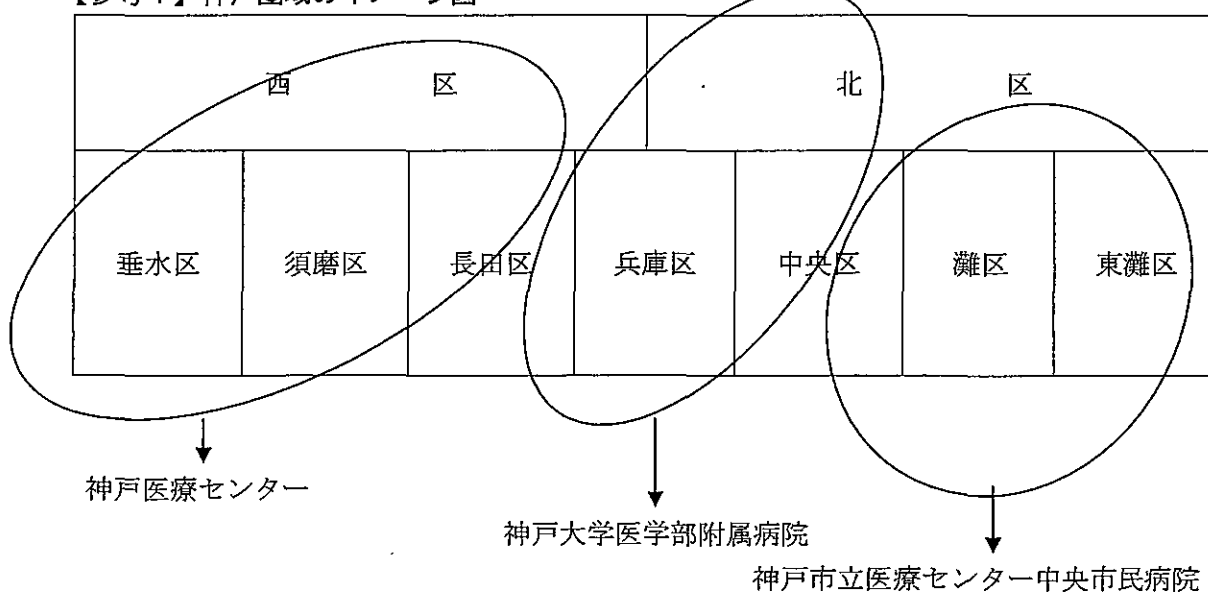
神戸圏域では、「国立病院機構神戸医療センター」を推薦します。

神戸圏域の人口は150万人を超える本県でもっとも人口の多い圏域です。東西に細長い地域で、東南部は旧市街地に加え、ポートアイランド、神戸空港などの人工島を造成した新市街地を形成しています。一方、北・西部では大規模なニュータウン開発が進み、神戸市営地下鉄沿いに市街地が形成されています。

がん患者の通院圏域から分析すると、同圏域ですでに指定を受けている神戸大学医学部附属病院及び神戸市立医療センターとの機能的な役割分担は下表のとおりとなります。

項目	国立病院機構 神戸医療センター	神戸大学医学部 附属病院	神戸市立医療センター 中央市民病院
地域分担	西部地域	北部・中央（西側）地域	東部・中央（東側）地域
推薦理由	入院・外来感謝の約9割が神戸市須磨区、垂水区、西区等圏域西部から受け入れている。	入院・外来患者の約7割が神戸市北区、兵庫区等圏域北部・中央（西側）地域から受け入れている。	入院・外来患者の約6割が神戸市中央区、東灘区等圏域東部・中央（東側）地域から受け入れている。

【参考1】神戸圏域のイメージ図



なお、各病院の特徴は下表のとおりです。

項目	国立病院機構 神戸医療センター	神戸大学医学部 附属病院	神戸市立医療センター 中央市民病院
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胃がん、大腸がん分野で本県のがん治療の重要な役割を担っている。</li> <li>・5年追跡率99.1%（胃がん）と精度の高い院内がん登録を1998年から実施</li> <li>・集学的治療の実施のほか訪問看護、在宅訪問医等と連携した質の高い療養生活を送ることができる在宅医療を提供しており、今後、拠点病院として全県的な展開の核となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「肝切除と経皮的肝灌流化学療法」の2段階治療など肝臓がん分野で本県のがん治療の重要な役割を担っている。</li> <li>・放射線治療をはじめとする他の圏域の多くの病院との連携実績</li> <li>・特定機能病院の研修機能を活かした専門医の育成</li> <li>・他の拠点病院との連携強化による高度先進医療の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先端医療センターにおける増幅臍帯血の臨床研究協力病院となるなど白血病分野で本県のがん治療の重要な役割を担っている。</li> <li>・平成22年度を目標とする「新中央市民病院基本構想」に「がんセンター」の設置や先端医療センターとの連携強化を打ち出すなどのがん医療の充実</li> </ul>

#### 4 国立病院機構神戸医療センター指定の効果

##### (1) 国立病院機構神戸医療センターが属する神戸圏域における効果

すでにかん診療連携拠点病院の指定を受けている「神戸大学医学部附属病院」や「神戸市立医療センター中央市民病院」は、当該圏域だけでなく他圏域や他府県からの患者を診療するなど、いわゆる準都道府県型拠点病院的な性格を有しているのに対して、神戸圏域密着の医療機関である国立病院機構神戸医療センターががん診療連携拠点病院の指定を受けることによって、次のとおり、がん診療の質の向上やがん診療の連携協力体制の整備が一層図られると想定しています。

##### ① 胃がん、大腸がん分野における補完・強化

（人口70万人以上の圏域における拠点病院における胃がん・大腸がん開腹手術件数）

圏域名	人口	医療機関名	胃	大腸	圏域合計	
					胃	大腸
阪神南	1,033,648	関西労災病院	12	25	34	50
		兵庫医科大学病院	22	25		
阪神北	720,985	近畿中央病院	15	13	15	13
東播磨	719,057	県立がんセンター	26	18	26	18
神戸	1,533,172	神戸大学医学部附属病院	6	5	10	10
		神戸市立医療センター中央市民病院	4	5		
		国立病院機構神戸医療センター	10	13		

※開腹手術件数は平成20年6月～7月の実績